

創作オペレッタにおける印象づけを主眼とした作曲手法について

A Study of Composition Technique with a Focus on Impressions Made in Creative Operetta

キーワード：歌詞、印象、強調、効果、作曲、オペレッタ

柳田 憲一

YANAGIDA Ken-ichi

三好 優美子

MIYOSHI Yumiko

1 はじめに

本学において制作された「創作オペレッタ」作品は、その成果として外部ホールで発表を行うが、1回限りの上演であり再演は想定されていない。そのため、作品づくりにあたっては、1回の上演で観客に対してどのように印象づけができるか、という行為が訴求力となり、観客の作品理解への近道の一つともなる。

オペレッタは、作曲、演奏(ピアノ・声楽等)などの「音楽」分野、小道具、衣装、照明などの「造形表現」分野、演出、振付などの「身体表現」分野、そしてストーリー、台本などの「言語表現」分野というように、さまざまな分野の要素が入り組んだ構成により創作される。つまり、印象づけの方法は、どの分野からでもアプローチが可能となるわけである。

しかし、実際は「音楽劇」であり、「音楽」が全体を支配していると言っても過言ではない。「音楽」を主要要素に位置づけた場合、「音楽」に関わる部分での印象づけは、作品にとって大きな意味を持つことになると考えられる。

では、「音楽」のどのような要素を印象づけの手段とするのか。観客に対して一番理解してもらいたいことは、「ストーリーの内容」と「ストーリーが伝えたいこと」ではないか。観客は、視覚的情報としての「映像(演技)」と聴覚的情報としての「音楽」を舞台から受け取り、内容を理解している。特に内容理解にあっては、言語情報が観客に対して直接的な影響力を

持つことになることから、歌詞の作り方が重要になってくる。歌詞は、観客に登場人物(対象)の名前や特徴、及びその感情を伝えるという役割を果たし、状況や場面の理解等を言語によって促している。さらにメロディを伴うことによって「歌」となり、観客及び演者にとって感情移入しやすくなることから、ストーリーに対する共感が得られることとなる。そうすると、メロディ化されることを前提に、そして歌による感情移入が可能となるよう歌詞を作成する必要がある。

感情移入を促す手段の一つとして、メロディやハーモニー構造の工夫が挙げられる。特にメロディは、歌詞を構成する伝えたいキーワードとなる「単語」「文節」等を強調するように制作することで、感情移入を含めた強い印象づけが可能となる。

一方で、同一メロディや類似メロディ、そして特徴のあるモチーフや音型をパッケージ化した状態で反復提示を行うこともある。観客は反復提示されたメロディや音型等の聴取段階で、前出現時の記憶を辿って予測される状況や場面等を聴覚的に得ることができ、言語に頼ることのない状況判断も可能となる。これらも印象づけの手段の一つとなり、作品理解への近道となる。

本稿では、今後のオペレッタ制作に活かすことを目的として、本学で上演された過去の作品から歌詞・メロディ・音型等の反復提示について、意図の効果として整理し、構造を捉え直すこととする。

II 強調を目的とする歌詞作成とメロディ構造

セリフ及び歌には、舞台上の内容を説明する役割があるが、歌詞にはある程度の制限があるため、印象づけの単純な手段として、「反復」が挙げられる。ここでは、「品詞の反復による強調」「部分反復素材による強調」「複合反復素材による強調」及び「倒置による強調」について実例を挙げて整理する。

1. 品詞の反復による強調

1) 単語や文節を反復素材とする

(1) 名詞

最初に名詞の反復例とその効果について紹介する。

①登場人物に関わる強調

i) 他者への呼びかけ

登場人物への反復を用いた呼びかけによって、集中を促す。ここでは「せんせい」の登場に注目させるため、「せんせい」を反復素材としている(図1)。

「せんせい」を反復音型(4分音符+4分音符+4分休符)とし、同型反復させることで、単純な強調効果を生み出す(譜例1)。

ii) 自己紹介として

自己紹介としての名前の反復によって、自身のアピールをする。ここでは「トマト」という自分の名前を反復素材としている(図2)。

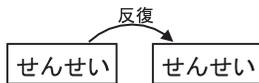


図1

せん せい せん せい

平成20年度B-c, dクラス「静〜手〜つ〜」より

譜例1

「トマト」を反復音型(付点8分音符+16分音符+4分音符)とし、3回目で2度上行させることと、リズムをすべて4分音符に拡大させることによって名前の誇張を表している(譜例2)。

②場面に関わる強調

場面に関わる名詞を反復することによって、状況を説明する役割を果たす。ここでは「お弁当の時間の開始」を表すために、「おべんとう」を反復素材とする(図3)。

「おべんとう」を反復音型(「付点8分音符+16分音符」×2 +4分音符+4分休符)とし、2回目を2度上行させることと、付点のリズムによって「食事の時間への期待感」を表している(譜例3)。

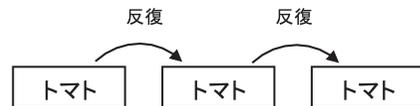


図2

ト マ ト ト マ ト ト マ ト

平成26年度Bクラス「ゆめのだいぼうけん」より

譜例2



図3

お べ ん と う お べ ん と う

平成26年度Bクラス「ゆめのだいぼうけん」より

譜例3

③心情に関わる強調

心情に関わる名詞を反復することによって、心象風景を説明する。ここでは「失敗を恐れず立ち向かっていく」気持ちを強調するために、「ゆうき」を反復素材としている(図4)。

「ゆうき」を反復音型(16分音符+16分音符+8分音符)とし、「き」の8分音符に強点が配置されることと、3回目の反復で3度上行の音型になることによって、そこに強い意思や決意が表されている(譜例4)。

(2) 動詞

①欲求1

反復によって、強い欲求・願望を表している。ここでは壊れたロボットの復活を願うために、「うごけ」を反復素材としている(図5)。

「うごけ」を反復音型(5度上行2度下行、4分音符+4分音符+4分音符+4分休符)とし、2回目を2度下行させることで、人物の心的距離がより対象に近づ

き、「動け」「動いてほしい」という強い気持ちを表している(譜例5)。

②欲求2

反復によって、強い欲求・依頼を表している。ここでは先生に読み聞かせをねだる様子を表すために、「よんで」を反復素材としている(図6)。

「よんで」を反復音型(付点8分音符+16分音符)とし、下行と上行を交互に4回反復させることで、「読んでほしい」という強い欲求を表す(譜例6)。

(3) 副詞

反復によって、強い思いを表している。ここでは友情の継続を願うために、「ずっと」を反復素材としている(図7)。

「ずっと」を反復音型(2度上行、8分休符+8分音符)とし、2度上で反復させることで、強調効果を生み出している(譜例7)。



図4



図6

譜例4

譜例6



図5



図7

譜例5

譜例7

(4) 形容詞

反復によって、強い驚愕を表している。ここでは宝物を見つけて目を見はる様子を表すために、「すごい」を反復素材としている(図8)。

「すごい」を反復音型(16分音符+付点8分音符+16分音符)とすることによって、人物の気持ちが高まる様子を表現している(譜例8)。

(5) 感動詞

反復によって、場面設定・状況を表している。ここでは朝の教室で仲間が集まる様子を表すために、「おはよう」を反復素材としている(図9)。

「おはよう」を反復音型(付点8分音符+16分音符+4分音符)とし、3回目を3度下行させて拡大反復することに加え、付点のリズムが教室の明るい雰囲気を表している(譜例9)。

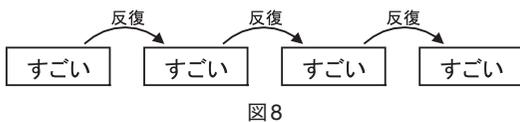


図8

平成25年度Bクラス「とびだそう夢の舞台へ」より

譜例8

2) 複数文節を反復素材とする

「奇跡」が起きて強く感動したことを強調するために、「キセキっていいね」を反復素材としている(図10)。

「キセキっていいね」を反復音型(8分音符+8分音符+4分音符+4分音符+8分音符+8分音符+2分音符)とし、2回目を4度上で反復させることで、強い感動・気持ちの盛り上がりを表している(譜例10)。

2. 部分反復素材による強調

1) 先行語を反復素材とした強調

(1) 単語素材

① 単純反復

舞台設定に関わる状況を説明するために、名前を印象づける。ここでは、人物が迷い込んだ国である「ハートおうこく」の「ハート」を抜き出して反復素材としている(図11)。

「ハート」を反復音型(4分音符+8分音符)とし、3回反復させることで、国名を強調している(譜例11)。

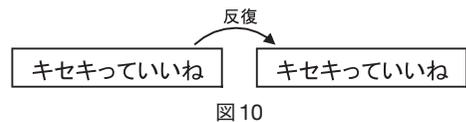


図10

平成17年度B4クラス「キセキ～みんなの絆～」より

譜例10



図9

平成18年度B-cクラス「ぼくらの約束」より

譜例9

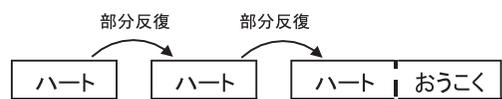


図11

平成28年度Aクラス「私たちの冒険～仲間の手～」より

譜例11

②相互反復

目的を強調するために、2声部で対象を交互に反復させる。ここでは、将来の夢である「けいさつ」の「けいさつ」を抜き出して反復素材としている(図12)

「けいさつ」を反復音型(4分音符+8分音符+8分音符+タイ+2分音符)とし、2度あるいは増1度で上行しながら相互反復させ、最終的に1/2に縮小された反復音型(8分音符+16分音符+16分音符)で締めくくると、子どもたちの興奮を表している(譜例12)。

(2) 文節素材

単語のみならず、文節を抜き出して反復を行う。ここでは、「やさい」だけではなく「なんて」を含んだ「やさいなんて」を反復素材とし、登場人物のネガティブな気持ちを表している(図13)。

「やさいなんて」を反復音型(8分音符+8分音符+8分音符+8分音符+4分音符+4分音符)とし、2度下行しながら3回反復させることで、悲観的になる様子を表している(譜例13)。

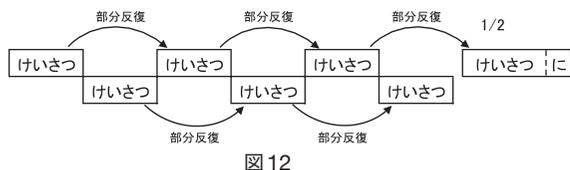


図12

譜例12

(3) 先行語の後続反復

文節から先行単語を抜き出して、反復を行う。ここでは「だれかおしえて」の「だれか」を反復素材とし、後続反復により、まわりに救済を求めている(図14)。

「だれか」を反復音型(8分音符+8分音符+8分音符)とし、2拍単位の「4分音符3つによる拡大された3連符」に再構築することで、1音ごと引き延ばされた音型になる。また、3つの3連符による下行反復音型の2度ずつ下行させることで、開始音「B-A-G」がさらに「隠れ拡大音型」となる。また、最後に置かれた「だれか」の「れ」を引き延ばし、「引き延ばし音型(だれーか)」にすることで強調効果を生み出している(譜例14)。

2) 後続語を反復素材とした強調

文節から後続語を抜き出して、続けて反復を行う。ここでは「はいつてないのはおれだけだ」の「おれだけだ」を反復素材とし、後続反復により疎外感を訴えている(図15)。

「おれだけだ」を反復音型(8分音符+8分音符+8分音符+8分音符+4分音符+4分音符)とし、2度上で反復させることで、自分の立場を訴えている(譜例15)。

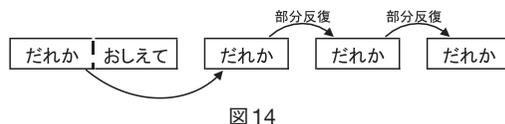


図14

譜例14



図13

譜例13

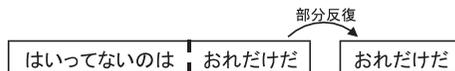


図15

譜例15

3. 複合反復素材による強調

「新」レンジャー」を強調するために、「しんレンジャー」の「しん」を反復素材として、4回の反復後に「しんレンジャー」へと繋げる。さらに、強調された素材である『しん』『しん』『しん』『しん』『しんレンジャー』を反復フレーズとし、複合的な反復を行う(図16)。

「しん」を反復音型(4分音符)とし、同度で5回反復させることで、新しさを強調する。さらに、フレーズを反復させることで、登場人物の自己紹介を印象づけている(譜例16)。

4. 倒置による強調

1) 後続語の倒置反復

ここでは「さがそう」という気持ちを高めるために。「ふ

たりをさがそう」の後続語「さがそう」を倒置反復している(図17)。

「さがそう」を反復音型(4分音符+4分音符+2分音符)とし、倒置部分で4度上行反復ののち、5度下で反復させることで、多方向に呼びかけている様子を表している(譜例17)。

2) 文中語句の倒置反復

ここでは不安な気持ちを印象づけるために、「ここはどこなの」の「どこ」を倒置反復している(図18)。

「どこ」を反復音型(8分音符+8分音符)とし、倒置部分において2度下行しつつ3回反復したのち、同度で反復させることで、自分の不安を訴えている(譜例18)。

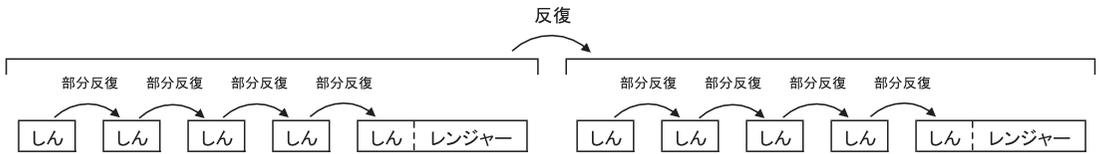


図16

平成27年度Aクラス「たからもの」より

譜例16

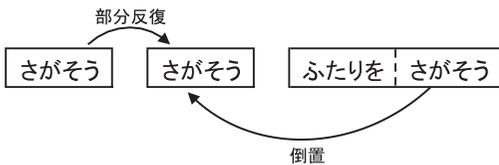


図17

平成18年度Bクラス「ぼくらの約束」より

譜例17

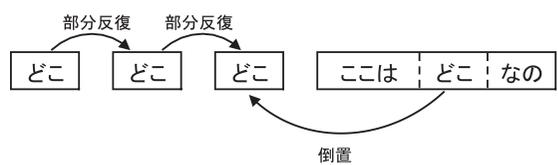


図18

平成26年度Aクラス「私たちの冒険〜仲間の手〜」より

譜例18

III 同一音型の反復を用いたメロディ構成

「同一方向に進行する同一音型」を一つの小フレーズ内に規則的に配置し、一つのパッケージとして反復を伴いメロディ創作を行うことで印象づけを狙うものである。そのため、歌詞制作においても、「同一方向に進行する同一音型」を一つの小フレーズ内に規則的に配置されることを前提に、「印象づけを狙う単語」を文節内の同一箇所に取り込む。

ここでは、印象づけを狙う単語「とり」を「～は(も)『とり』』というように、各文節の最後に統一して配置し、反復させることで印象づけを図っている(図19)。

各文節に反復された「とり」を反復音型とし、メロディの3拍目から1拍目にかけて、「8分音符+4分音符」の同一音価で6回提示している。その反復パターンによって観客に「とり」の登場を予感させ、その語に集中させている(譜例19)。

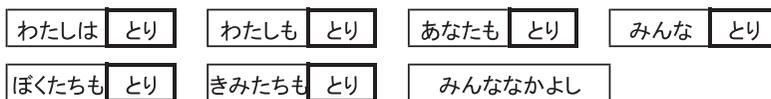


図19

わ た し は と り わ た し も と り あ な た も と り み ん な と
 り ぼ く た ち も と り き み た ち も と り み ん な な か よ し

平成24年度Bクラス「6人のだいぼうけん～みんながおしえてくれたこと～」より

譜例19 「同一方向に進行する同一音型」の反復提示

わ た し は と り わ た し も と り あ な た も と り み ん な と
 り ぼ く た ち も と り き み た ち も と り み ん な な か よ し

平成24年度Bクラス「6人のだいぼうけん～みんながおしえてくれたこと～」より

譜例20 「譜例19」の伴奏づけ例

①古いレンジャー（赤レンジャー以外）：ゴミ箱に登場

ここは どこ だれか いる さっきまで たのしく あそんでたの に ここは

This musical score is for the 'Old Ranger' (excluding the Red Ranger) appearing in the trash can. It features a vocal line in 3/4 time and a piano accompaniment. The melody is simple and repetitive, with lyrics in Japanese. The piano part consists of a steady eighth-note accompaniment.

②子どもたち（あつくん以外）：ゴミ箱に登場

ここは どこ だれか いる さっきまで しんレンジャーと あそんでたの に

This musical score is for the children (excluding Atsukun) appearing in the trash can. It features a vocal line in 3/4 time and a piano accompaniment. The melody is similar to the previous score, with lyrics in Japanese. The piano part consists of a steady eighth-note accompaniment.

③子どもたち（あつくん以外）：ゴミ箱を動きまわる

This musical score is for the children (excluding Atsukun) moving around the trash can. It features a piano accompaniment in 4/4 time. The melody is a simple, repetitive eighth-note pattern.

④赤レンジャー：ゴミ箱に登場

ここは どこ だれか いる さっきまで あつくんと あそんでたの に

This musical score is for the Red Ranger appearing in the trash can. It features a vocal line in 3/4 time and a piano accompaniment. The melody is similar to the previous scores, with lyrics in Japanese. The piano part consists of a steady eighth-note accompaniment.

⑤あつくん：ゴミ箱に登場

ここは どこ だれか いる さっきまで あかレンジャーと あそんでたの に

This musical score is for Atsukun appearing in the trash can. It features a vocal line in 3/4 time and a piano accompaniment. The melody is similar to the previous scores, with lyrics in Japanese. The piano part consists of a steady eighth-note accompaniment.

⑥あつくん：ゴミ箱を動きまわる

This musical score is for Atsukun moving around the trash can. It features a piano accompaniment in 4/4 time. The melody is a simple, repetitive eighth-note pattern. A first ending bracket is indicated above the staff.

平成27年度入クラス「たからもの」より

譜例22 同一・類似主題の反復提示

①悪役である伯爵の登場場面

基本音型の強点(リズムグループの冒頭拍)の欠如により、前奏では聴き手に不安定な印象を与えているが、歌の開始及び伯爵の登場により、強点が出現し力強さを与えている。常に基本音型を反復させることで、音型と伯爵との関連を観客に植え付ける(譜例24)。

②移旋による雰囲気の変化(暗い)

歌の後奏で基本音型が³A Phrygian Modeからf

mollへ移旋され、終結部に使用することで伯爵の力強さを強調している(譜例25)。

③音型停止による状況の中断

音型停止とともに場の雰囲気を変断させる。状況が整った後に、音型がスムーズに再現される。音型停止は動作停止を示し、音型再現により観客は動作復活を聴覚的に捉えることができる(譜例26)。

伯爵登場

われわれは つよ いん だ ハートをとって つよくな

平成28年度メカラス「私たちの冒険～仲間の手～」より

譜例24

せかいせいふく して やるぞー

平成28年度メカラス「私たちの冒険～仲間の手～」より

譜例25

(伯爵登場) (伯爵振り向く) (手下は違う方向に行く)(手下、向きを変えて行進)

「誓の者、私についてきたまえ」 「ちよちよちよいこちだる」
「はっ、どこまでもついていきます」

平成28年度メカラス「私たちの冒険～仲間の手～」より

譜例26 伯爵と手下の退場場面

④BGMとしての転用

①とは異なり、前奏に強点が登場し強さを印象づけながら歌を伴わない反復提示を継続することで、伯爵の強く不気味な人物像を暗示している(譜例27)。

⑤基本音型の挿入

ここでは、争っている場所への伯爵の登場に伴い、他の舞台状況を示す音楽から、歌を伴わない「伯爵基本音型」が突然挟み込まれ、観客に伯爵の登場を聴覚的に示している(譜例28)。

⑥移旋による雰囲気の変化(明るい)

冒頭の威圧感とは異なり、伯爵達が恐れるに足ら

ない性格だと判明し、コミカルに退場するシーンである。ここでは、基本音型のリズムを維持しながらD Mixolydian Modeに移旋された提示となっている(譜例29)。

VI まとめ

これまでに明らかとなった印象づけをねらいとした反復による作曲手法は以下のとおりである。

1. 目的によって、反復音型を活用することで、より効果が期待できる。
2. 一つの曲の中で同一音型を繰り返すことで、聴き手に予測させるといった効果を持つ。
3. 同一メロディを曲中に転用する。その際、リズム

伯爵登場

平成28年度Aクラス「私たちの冒険～仲間の手～」より

譜例27

「お前たち、ハートが随分減ってるな」「何でもいから、伯爵に会わせなさいよ」「そう簡単に会わせる訳ないだろ」「何の騒ぎだ、ゆっくり寝れやしないじゃないか」「伯爵様、申し訳ありません」

平成28年度Aクラス「私たちの冒険～仲間の手～」より

譜例28

平成28年度Aクラス「私たちの冒険～仲間の手～」より

譜例29

や調、拍子、歌詞等の変化で観客に与える印象が微妙に変化する。

4. 特定の状況・登場人物等に対応する特定の音型を用いることで、聴覚的情報が記憶を喚起し、舞台状況の理解を促す。

VII おわりに

「音楽」のどのような要素が印象づけの手段となり得るのか、という点を中心に楽曲分析を行ってきた。本稿では印象づけの根拠の一つとなる「単語」や「文節」等をメロディ化することに特化し、1回上演で観客に舞台上の情報を提供するために、歌詞の反復を主とした作曲手法についてまとめることができた。しかし、セリフを歌詞へと導く方法については、さらに議論が必要である。

今回はメロディの側面から整理・考察を行ったが、音楽はメロディのみで構成されるわけではない。今後の課題は、和声的観点や調的観点を軸とした作曲手法についてもさらに整理し、その効果をまとめることであると考えている。

付記

本研究は、研究代表者である柳田憲一と研究分担者である三好優美子の2名により行われた。研究代表者である柳田は、全体計画、譜例の抽出・作成・分析、I・II・III・IV・VIIの執筆、研究分担者である三好は、譜例の抽出・分析、V・VIの執筆、及び全体の調整を担当した。